

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1026
施設名	西国立保育園
施設所在地	立川市羽衣町2-43-4
法人名	社会福祉法人草蒨学舎

1. 活動のテーマ

<テーマ>

まちなかの保育園で自然を感じよう —栽培・四季・食育—

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
四季における植物の栽培を通じて観察・収穫を体験しながら、気候、四季、自然を感じ「なぜ・ふしぎ」の心を育むとともに、発達段階に 応じた食育や表現などの活動へと展開し、社会環境への興味関心へとつなげていく。

2. 活動スケジュール

【栽培活動】ブドウの栽培(4~9月) 花壇の土作り(5月) イチゴの収穫(5月) サツマイモ栽培(6~11月 苗植え/草取り/つる返し/つる切り) バケツイネの栽培(6~10月) プランターを利用した花・夏野菜の栽培(5~8月) 冬野菜の栽培(11~2月) 観察活動 収穫物を昼食の食材に提供 【栽培を通じた活動】肥料づくり(5月) 感謝祭礼拝(11月) 収穫の恵みを神に感謝し祝う キャンプごっこ(11月) 庭にテントを張り、火を起こして収穫物を用いた調理活動を行い、秋の気候と味覚を皆で味わう。【表現】上記活動を絵画等で制作する。【秋の実りとクリスマス】リース制作(11・12月; イモのつるを利用)「火」を知る(11・12月; キャンプで火のもつ力や危険などを理解する、キャンドルや劇あそびを通じ人々の営みにおける火の歴史や役割を知る)もちつき(12・1月; 収穫したイネモミを脱穀し、もちつきでは新年飾りの鏡餅をつくり、伝統行事を伝える)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
子ども達にとって新たな体験への興味関心や意欲を大いに高めることが出来るよう、物的・人的環境の設定に留意した。【栽培】圃場・プランター・土・肥料・農具・苗・シャベル・画材等【収穫感謝祭・キャンプごっこ】テント・かまど・薪・羽釜・サツマイモ他収穫物等【クリスマス】劇衣装・舞台装置【もちつき】臼・杵・餅米・正月飾り【節分】節分豆(次年度栽培の肥料に活用)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

四季を通じた花や作物の栽培活動では年齢ごとの発達段階に応じた環境設定を行い、幼児クラスは「見たい・触れたい」など五感を刺激し、一人ひとりが自発的に関わり取り組む意欲、季節や生命への「なぜ・ふしぎ」といった探究心を引き出す点に配慮しながら、適宜働きかけを行った。乳児は安全に配慮しながら作業の保育者と共に過ごしつつ、子どもの視線や発語を通じた興味関心に保育者が都度応え、興味関心を引き出すよう心がけた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

花壇の土作りでは、2月の節分豆を混ぜて肥料にし、資源を無駄なく使えることの面白さ、大切さを伝え「『良い土』になるように」と皆で懸命に混ぜたり、道具の洗浄を「洗いたい」と自発的に手伝う姿が見られた。数多くの新たな体験を楽しみながら栽培や労作の尊さ、季節や物事のつながりを知る貴重な契機となった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自分たちで植えた植物の世話を通して、身近な自然への興味や関心が日々高まる姿を認めた。作物の「生長」と共に子どもたちの「成長」を実感することができた(幼児クラス) / 種まきと発芽では子ども達も目を輝かせて観察していた。小さな子ども達ならではの、植物の生長や、虫や鳥の不思議な動きにも気づき全身をもって表現する、豊かな感性が見られた(乳児クラス)